

「まさか自分たちが家を建てるなんて考えてもみなかったです。実家は信州だし、ずっと賃貸でいいかなと考えていたので」

そう話すのは、育ち盛りの2人の息子さんと暮らすTさんご夫妻。家づくりのきっかけとなったのは、息子さんの同級生家族の住まいだった。

「家に遊びに行ったら、なんだか普通と違うというか。木の香りと、建具の手触りとか。コンパクトな家なのに里山の風景に開いていて、広く感じるんです」

すっかり感化された家を建てたくなったという奥様。その友人の家を建てたのが鈴木工務店と知り、家づくりを依頼したそう。以前は賃貸マンション暮らしで、幼い子どもたちの足音さえ、階下への配慮から気になる生活。「もとのびのびと過ごせる家がほしい」というのが一番の希望だった。

運良く学区内に土地を取得。広い交差点に程近く、総杉板張りの外観は地域のランドマーク的存在だ。通りに面してすべてを扉で囲わず、植栽で外からの視線を制御しながら街に潤いを与えている。1階の掃き出し窓は、猫間障子(下半分を上げ下げできる)を入れているが、家にも負けず開放的な性格のご家族は、日中ほとんど閉めずにごしているそうだ。

延床面積約100㎡の家は、LDKを配した1階も、寝室と子どもスペースのある2階も、水まわり以外には扉のないワンルーム状の間取りが特徴だ。また、玄関から1階キッチンへは間仕切り収納に挟まれた裏動線がつながり、2階水まわりのすぐ脇には、室内干しスペースとバルコニーを配置。効率的な家事動線が、仕事と家事、子育てで忙しい毎日を支えている。

家の中からデッキから、ぐるぐると走り回る息子さんたちを見守るご主人は、
「まあ、目論見通りですね」とほほ笑む。公園に近いことから息子さんの友だちが度々訪れるそう。畳間のあるリビングで遊ぶ子

家族4人、扉は3枚のみでのびのびと暮らす、子育て世代の家

子どもたちが気兼ねなく走りまわれる家になりたい。そう考えたパパとママの思いがたちになりました。木をふんだんに使った家は地域のランドマーク的な存在です。



1. 杉板仕上げの室内。1階リビングの掃き出し窓には、引き込み式の猫間障子が入っている。カウンター兼ダイニングテーブルはイロコ材で造作した。2. 2階は間仕切りの無い広間を子どもスペースに。写真奥の寝室もあえて扉なし。3. 美濃焼の沓脱石を配した玄関土間。ご主人の趣味の自転車置き場も確保した。4. 通りに面しても開放的なアプローチ。バルコニー下のデッキは格好の遊び場。5. 地域のランドマーク的存在となっている総杉板張りの外観。 photo by 中村絵

どもたちの傍ら、ママたちは造り付けのキッチンカウンター兼ダイニングテーブルでお茶をするのが定番だとか。

そうした開放的な間取りを快適な室温に保つため、つくり手である鈴木工務店は気密と断熱性能にもこだわる。小屋裏に設置したダクトタイプエアコン1台で効率的な冷暖房を計画している。

「冬は間欠運転ではなく暖房19.5度設定のエコ運転で一日中回しています。それでも電気代は5〜6000円です。夏は日除けの外付けシェードを降ろして、主に寝るときにだけ冷房をつけました。それも28度設定で十分かな。電気代は5000円前後でしたよ」

と奥様。住宅性能と光熱費の関係性も「目論見通り」のようだ。

住み始めて約10カ月。庭木を植えたり、ワンルーム状の間取りの使い方や家具のレイアウトを検討してみたり、「考えてもみなかった」という我が家は、少しずつ家族の色に染まっている様子。手触りのやわらかい杉の無垢板で天井と床、壁を仕上げた空間は、時と共に表情に深みを増し、家族の記憶を刻んでいくことだろう。

建物完成見学会

4月中旬 高津区二子新地にて「敷地をシェアする いえ といえ」

※詳しくはお問い合わせ下さい
※5月は読売ランド前駅そばにてマンションリノベーション完成見学会を開催



※画像はCGイメージです。 ZEH, Nearly ZEHの家

株式会社 鈴木工務店

195-0053 東京都町田市能ヶ谷3-6-22
tel 042-735-5771 www.suzuki-koumuten.co.jp

